



# 令和4年度 総合技術監理部門 技術士合格体験記 竹原 豊和 様

## “本講座を受講しなければ、私の合格は無かった”

### ◎はじめに

私は、本講座にて技術士の「情報工学部門」「総合技術監理部門」の2部門に合格致しました。その際の、受験からの合格までの経緯について簡単ですが、説明させていただきます。

### ◎受験動機

技術士そのものの受験動機は、やはり「技術士」という存在の大きさであったと考えます。情報工学部門に関連する資格には、IPA様が行っている「情報処理技術者試験」があり、先にそちらを受験していました。この情報処理技術者試験の高度と呼ばれる分野に合格する中で、技術士との違いを明確に感じるようになりました。当然、どちらの資格においても信用度が高いのですが、やはり今後公益的な活動をしていくことを考えた場合や、私の所属する公益団体や企業において貢献していくことを考えると、技術士という信頼が高い資格の取得は安心と高レベルな技術並びにその成果物を提供できると考えて受験しました。

ただ、その後に受験する総合技術監理部門の受験動機は、今後様々な技術士を監理（管理）していく上で、広い視点から技術統括を行う必要性を感じて受験しました。

### ◎筆記試験突破対策講座の受講

一度目の情報工学部門の受験に失敗した際にご相談させていただいたのが本講座の先生でした。それがきっかけで筆記試験対策講座を受講しました。おかげさまで、次の年には無事、情報工学部門に合格致しました。また、総合技術監理部門においても、受講させていただき、無事合格致しました。

筆記試験突破対策講座では、何度も何度も添削をいただきました。その添削内容は正直厳しいものであり、結局最後まで1度目の提出で合格点をいただくことはできませんでした。また、

一つの問題に対する解答の視野が広く、大変勉強になりました。

また、技術士の受験と並行して情報処理技術者試験も受験していましたが、その中で最高峰と言われているITストラテジストの論文試験合格は、本講座のおかげと感じています。

### ◎口頭試験対策講座の受講

口頭試験そのものの合格率は非常に高いとありますが、だからこそ口頭試験対策講座は必要だと感じています。そのため、筆記試験に合格した際には、必ず模擬面接を体験する必要があると感じています。本番とかなり近い状況での模擬面接をいただけたことや、本番試験にて質問されそうな内容についてのアドバイスをいただけたことは非常に助かりました。アドバイス通り、本番試験でも同様の諮問がされましたので、慌てずに対応することができました。

ただ、業務経歴の詳細に記載した内容がそのまま口頭試験にて活用されますので、この口頭試験対策講座のみを受講するのではなく、筆記試験突破対策講座にて受験申込書そのものを添削いただくことも併せて重要と感じました。

### ◎おわりに

技術士の受験においては、合格するためのコツを熟知している先生方からご指導いただくことが合格への近道と考えます。また、しっかりと勉強して技術士試験に合格することこそが、後に技術士としての能力を発揮できるとも考えます。本講座を受講しなければ、私の合格は無かったと断言できると考えており、本講座で学んだことが日々の実務に活かされていると感じております。

今後においても、先生方からの教えを元に技術士として公益や我が国の技術の発展に貢献していくように致します。ご指導いただき、本当にありがとうございました。